交叉点24

明高２４回生通信

1 st. /FEB. / 2012

よみがえる栄光の風雲

小倉隆興

２４回生の皆さん、益々お元気にご活躍のことと思います。この度、近況報告をとのことですので、心に浮かぶことを添えて記したいと思います。

私は間も無く 82 歳、老いぼれとなり、後期高齢者でなく、終期高齢者と言うにふさわしい姿となりました。そして日々静穏で閑寂な日々を過ごしています。

私の教員としての生活期間を振り返ると、戦後まだ在学中で 21 歳のとき夜間高校の時間講師を依頼されて勤務、卒業後 37 年間県立高校の教師を務めて定年となり、その後専門学校の教師、大学の講師を１１年間依頼されて合計 48 年半の教員生活を送りました。年を経るに従って、職を辞して日々のびのびと過ごしている人がうらやましくなり、辞職させていただいたのですが、辞職後の生活は、望んでいた悠々自適の優雅な日々とは違って、幽寂で心労の多い日々で、すっかり老いぼれの姿となってしまいました。

元来、影の薄い人間でしたので、もう蔭もなくなって然るべきだろうとは思いますが、一日でも楽しい日を取り戻し、喜悦の境を得たいと願っています。しかし、老衰のため体のあちこちの部品が壊れてきたのでしょうか、足繁く通院しています。そして、皆さんに逢うまでは元気にと思い、毎日１時間ほどの散歩か、自転車での回遊をしています。

そんな寂滅の境地の中で、陽気をよみがえらせてくれるのはやはり明高時代の思い出です。

先ず、第一に思うことは、皆さんの学年を担当して、学内の風韻が一段と高まっていると感じたこと、また、私自身、勝手なことばかり考え、実行して、先生方や生徒達に迷惑ばかり掛けとうしてお叱りを受けたり、逆に励ましの言葉を戴いたりしたことが日々脳裏に浮かび、真に申し訳なく、また喜ばしく思い出されています。

私は元来、東京神田生まれで、関西地方には全く縁のない人間でしたが、学生生活が終わり、静岡市内の高校に勤務して間もなく、高木正雄先生（神戸大学教授、明石中学２回生）が全く偶然のことなから私のことを耳にお入れになって、明石高校への招請をお話下さいました。私にとっては文学で知った憧れの地でしたので勤務校に無理をお願いして、一年で転勤、以後二十七年間明石高校にお世話になりました。

しかし、明高生に初めて接したとき、脳裏に非常な心配・悩みが生じました。それは生徒が皆あまりにも誠実・真面目で言ったことは何でも素直に聞き入れ、受験勉強一途の道を一心に辿っている生徒であるということでした。

それに反して、私の学齢期は完全に戦中・戦後で軍事教育・国家総動員で正当な授業や勉強の行われない時代だったため、こんな経験不備な人間が此処の教師としての勤めが出来るだろうかという強い悩みにさいなまれました。小学校時代は食糧増産に派遣され、中学時代は学徒動員令で精密機械工場での戦闘機の制作、終戦後は米兵の指揮の下で山中の塹壕や、大砲・弾薬などさまざまな戦後処理が私達学生年代の大部分で、全く勉学には無縁の状態でした。しかし、そんな中で勉強のかけらでも掴みたいという私の動きを見ていらした方が救いの手をめぐらして下さったのでしょうか、全く就職困難時代に教職に就くようお呼び下さいました。

更にもう一つの大きな疑問は、「授業」とはどういうものなのかその本質についての疑問でした。先生が生徒に教えるのが授業だとは思いますが、いったい何をどう教えることなのか、また、それだけで良いのか、というのが頭にこびりついた大きな疑問でした。

これについては自分で考え、探究して、自分で実行

していくしかないと心に決め、その道を進めていくうちに先生方や生徒に大きな迷惑をかけたり、また反面大きな喜びを抱いて戴くことになっていきました。

その最初に実行したのが「野外活動の実施」と「修学旅行の改革」でした。

時代は高校入学生の急増期に入り、その対処の仕方として先ず考えたのは生徒同士、生徒と教師との結び付きをどうするかという問題、さらにまえまえから私の一念であった教師の上からの一途の統一的な教育指導ではなく、「生徒自身が　自分で考え、自分で計画し、自分で実行する」という生徒一人一人が独自の主体性を樹立していくように仕向けていくのが教育ではないかという単純な理念です。

そこで、先ず野外活動を18回生から開始、次いで、修学旅行の改革を21回生から開始したのですが、何分にも初めての活動ですので、その準備と指導は大変なことでした。

当時、10人、15人程度でテントを持って山野で活動するグループはありましたが、5百人、6百人がテントを持ってなどということは不可能ですので、活動地をスキー場と定め、宿泊については村長さんも一緒になって民宿は勿論一般の農家にお願いして廻り、鉢伏高原、氷ノ山を活動地として選び、生徒に活動計画を立てるよう指導しました。

更に、それまではすべて旅行会社任せだった修学旅行については、大幅な活動範囲と宿泊地だけは私の方で設定して、その中で、各クラスの旅行委員を中心に、自分達で活動地区、活動目的、活動内容を綿密に話し合ってクラスごとに独自の計画を立て、実行しました。これらの計画の準備・指導は大変なことでしたが、私自身、一身を賭けてのことと考え実行した結果、帰校後、生徒全員が自分達で作り上げた計画を一番となって成し遂げ、「大成功」という喜びの大歓声を上げたあの輝きの姿は私の幽寂の気を払いのける唯一の思い出です。

そして、その完成度を一層高めたのは24回生でした。これらの行事はたちまち全国に広まり、実行されるようになりました。

こうした生徒たち自身の主体的な活動が、進学を初め学校全体の気風を高め、中でも24回生が一番高揚をきたした学年だったと思います。そして、こうした生徒自身の自力を養っていくのが授業であり、教育ではないかというのが私の考えでした。

しかし、その頃、明石地区の高校総合選抜の問題が起こり始めたことが耳に入り、私の胸にきわめて不快な問題としてひそむこととなりました。

この選抜制の実施により、また明高の歴史の流れを大きく考えざるを得ない時代となっていったのではないでしょうか。伝統の「自治・共同・創造」の精神を失うことなく、更に新たな高揚精神を強く引き起こしてほしいと思っています。

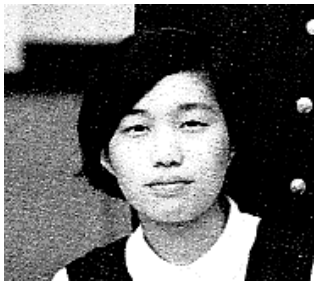
24回生の皆さん、またお会いする機会がありましたらあの皆さんの活躍の空気をもう一度味わいたいと思っています。

あらま！気がつけば57才

３－４　松谷（後藤）真貴子

ご記憶にないとは存じますが、私も、娘も、2代続けての明高生でした。松田さんが送って下さった「交叉点」をむさぼるように読み、あまりに懐かしさに、しばし、ぼう然。皆さんのお顔が次々に浮かんできます。

いろんな方面で、きっちりしっかり、華々しかったり地道であったりと、それぞれのなさり方でのご活躍のご様子。何よりです。



そんな方々に混じって「私でいいの？」とは思うものの、数多い中、「まあ、こういう人もいるだろう」くらいに気を抜きながら、お読み頂ければ幸いです。

勉強できなくて、運動もまるでダメで、マジメだけれど地味で影薄く、ハツラツともキャピキャピとも、美しさとも縁遠く、「えっ！これが青春？この子、女子高生？」という人間が 40 年経ったからといって、そうそう変われるものではありません。

昔のことはよく覚えているのに、新しいことは覚えられない。さっきのことは思い出せない。あの頃、ラジオから流れていた洋楽の数々、ジリオラ・ティンクウェッティ、エンゲルベルト・フンパーティンク・・・難なく記憶

し、舌もかまない。今も歌える。そんな記憶力はどこへ行った？野に咲く花もどこへ行った？　2Fへ上ったものの、何で上ったか忘れ、冷蔵庫から何を取り出したいのか忘れ、「え一っと、確か生姜が、この辺に・・・」程度のことで、毎日のように冷蔵庫からは、ピーピーせかされる。そんな時、決まって思い出すのが、昔TVで見た底抜け脱線ゲーム。金原さんの笛より前に、ちゃんと成し遂げるぞ！冷蔵庫相手にさえ、力が入る。

当然のことながら、車は運転できない。冬には冬の、夏には夏のハンドルカバーを装着し、前後に大きなカゴをつけたママチャリが私の足。フットワークは重くて、浅くて、半径500m内で事は足りる。映画も観に行かないし、流行りのフラもピラティスも習わない。花のある素敵な暮らしに憧れつつも、育てているのは、花なのか、虫なのか・・・。フラワーアレンジメントは、部屋の装飾品とはなってはくれず、ほこりをしっかりと受け止める装置と化す。未だにケータイは持たず、友人からは面倒臭がられ・・・だからと言って離れてゆく人もいず、ありがたいこと。

そんな私にも楽しみは2つあります。1つは食べること。子供達が小さい頃から「おいしく食べて、健康でいよう」がモットー。にぎやかだった食卓も、いつの間にか、夫と2人だけという日も多くなり、献立にも、食器にも心を配り、80才になっても20本の歯を残すことにも命をかけ、一食一食、心豊かに、感謝して頂けますように・・・これから何回「いただきます」「ごちそうさま」を言えるのでしょうか。キッチンに立つ時は、少し気合いが入ります。

もう1つは、読書。たった今、読み終えた本に圧倒されてしましました。百田尚樹さんの「永遠のゼロ」です。涙なしでは語れません。戦後1ケタ生まれの私達ですが、親世代は間違いなく、この本の中の世界に生きた人々。その時代の物語です。戦争はもちろんのこと、神戸の震災も、東日本大震災も、そして事故も病気も、、、何げない日常、おだやかな暮らしが、突然奪われてしまう・・・。改めて、平和の貴さ、命の貴さ、「生きるということ」の意味を考えさせられます。

今、私の隣には、明高生だった私が座っています。2年生の時のあの日のHRの議題は、愛する人を戦争に行かせるかどうか、国旗のこと、愛国心のことでした。机の並べ方まで覚えています。いい企画だったし、とても印象に残るクラスでした、教室の端には、いつもどおり、おだやかな表情で、物静かに、たたずんでらっしゃる白衣の中村先生。

チョークのにおい、揺らぐカーテン、制服姿の男の子、女の子。教室に抜ける風の流れを、今、懐かしく感じながら、改めて思います。

明高の、あの3年間は、紛れもなく、私の青春でした。大切な宝物でした。

先生、皆さん、本当にありがとう。感謝しています。

R.M.アカデミー音楽教室

松浦律夫

早いもので、今年で58歳になってしまいました。

明石高校時代に最初理数コースに居りながら、2年生の途中で音楽(フルート)で大学にと方針転換。林りり子先生に師事しておりました。先生が教えていた「大阪芸術大学演奏学科」に進学、2年生の時に先生が亡くなりました。何かしら心に風穴があいてしまい2年生3年生と良く遊びました。

その時に、サッシ屋さんの2tトラック運転手、喫茶店夜はスナックのバーテンなどいろいろと知らなかった世界を体験しました。

4年生の時に出会った荒井先生のレッスンを受けて、またまた音楽の世界に引き戻してもらいました。大学卒業してからウィーンに短期留学をさせてもらいました。帰国後、家業の手伝いをしながらフルートの指導をしてきました。

京都の十字屋、姫路の文化堂、自宅での「R.M.アカデミー音楽教室」とレッスンを続けました。楽器店での教室講師からそれぞれ京都・姫路での「R.M.アカデミー音楽教室」を開き順調に進んでおりました。

昭和54年に結婚をして一男一女に恵まれ、明石と姫路教室の生徒が多くなってきたので京都教室を後

輩に譲り、明石・姫路での教室と京阪神・東播西播においてのフルートの演奏活動に突き進んでいきました。

それが「神戸・淡路大震災」で吹っ飛んでしまいました。明石の生徒さんが「屋根の修理に大金がかかるので・・・」「仕事に通うのにたいへんなもので・・・」などで 20 名レッスンをやめていきました。当時レッスン料は月謝 8,000 円でしたので 2 月からは多額の収入減額になってしまいました。また、上の丸で借家住まいでしたが家が傾き「全壊」認定で追い出されました。

姫路教室が残っていたのでどうにか続いていけました。これを期にそれから 4 年間姫路に移り住みました。その後、親父が糖尿病で片足切断となり再び明石に帰りました。

明石に帰り家業の不動産屋と音楽教室との二束のわらじで 4 年間がんばりましたが、親父が亡くなり店舗の立ち退きにかかり廃業して姫路に転居しました。

度重なる転居で「引越し貧乏」になってしまいました。子どもたちはそれぞれ結婚して独立し、母親が昨年亡くなりました。

そして気がつくと、58 歳となっておりました。

今年はじめにまたまたの波乱万丈です、いろいろとあり熟年離婚とあいなりました。

最近はオカリナがブームとなり、カルチャーセンター・公民館などでの「オカリナ教室」にひっぱりだこです。なんとなんと 100 人以上の生徒さんがおります、しかしカルチャーセンター・公民館では 10 人程度のグループレッスンとなりますので、レッスン料は微々たるものです。(涙)

我ながらびっくりですが、そんなこんなで「R.M.アカデミー音楽教室」を続けております。

駆け足で私の足跡を書いてきてしまいました、面白くもない駄文のお付き合いありがとうございました。

みなさんも十人十色の人生を歩んでこられたことでしょうね。

残りの人生元気でがんばっていきましょう。

なつかしの明石

小池孝良

はじめに

2011 年 7 月 17 日の NHK「おはよう日本」で明石が、「明石のタコ」が大きく取り上げられました！番組は明石大橋の写真から始まりました。感動したのは「魚の棚」をきちんと字幕入りで「うおんたな」と正式名称で解説していたことです。河合さんのお陰で、明石の町並みの変容はご紹介いただいて居ますが、こうしてみると明石は本当に良いですね。故郷を出て、もう 40 年もの時が流れました。高校を出てから神戸旧市街、京都、名古屋、茨城県稲敷郡、札幌、ビルメン村、東京府中、そして札幌へ舞い戻りました。小池一族は神出町小東野(こそくの)へ、小野(現・小野高校の敷地)から出てきて 6 代目です。明石郡神出村の時代から暮らしていますが、古墳時代から続く神出町内では新参者とか。私は仕事柄、「流浪の身」になりました。一族の「北限」は秋田だったのですが(南限は福岡県志免)、私が最北になってしまいました。

同期の皆様へは、先ず、「明石のタコ」を通じて明石の思い出をふり返りたいと思います。また、明高でこの春に退職された吉田先輩や、前の教頭、生物の真野先生、そして生物の恩師、平畑先生らのお陰で、教育実習でお世話になって以来、実に約 30 年ぶりで明高の教壇に立たせていただきました。不出来な私ですので、身に余る光栄でした。書道の佐伯さんや浅田起代蔵さんの同伴も心強かったです。お土産に頂いた明石の「瓦せんべい」は、写真に撮って保存しています。2010 年 9 月はじめには、吉田(先輩)先生らの引率で明高生が札幌キャンパスを訪問して下さいました。全く予期しなかったことです。あいにく全学の漏電調査日で広報室も閉じていたのですが、後輩諸氏や草川同窓会長らには、構内を楽しんでいただけたでしょうか。

いずれにしても、遠く離れたおかげか、身に余る機会をいただき、同窓会の皆様のお世話になっています。お世話下さる河合さん、松田さん、中村さんらをはじめ同期の皆様に感謝しております。なにより 80 才近くになってもお元気で研究活動を続けておられる

平畑先生には感銘を受けます。自らに置き換えて、あのような情熱が維持できるのだろうか、と感じます。このことは後ほど。先ずは、明石の自慢からお付き合い下さい。

明石焼きの思い出

高 2 のころでしょうか。親しくしていた酒井さんのお宅に遊びに行ったある日、母上様から「卵焼きを食べに行きましょう」と誘っていただきました。西新町の辺りだったでしょうか。のれんをくぐってお店へ入りました。田舎者ゆえ、そういう店にはあまり入ったことがなく緊張した気がします。初めて頂いた熱々の卵焼きの味は、何とも味わい深く生涯忘れられない味になりました、

と申しあげたいのですが。実は一口目は、ただ熱くて、味がどうであったかは、よくわかりませんでした。少しさめてから、とろけるような味わい、と言うべきでしょうね、本当においしかったです。その後、出張で関西方面へ行くとき、海外へ行くときなど、関西空港2Fの店で、明石焼きは必ず頂きます。余談ですが、“きつねうどん”が第 2 のお気に入りです（JR 京都駅の立ち食いが、何ともおいしいですね）。こちらでは購入出来ない（九条？）ネギの味と出汁のコンビネーションが旨味なのだと思います。

テレビでもはっきり紹介されましたが、決め手は薄口醤油のだし汁とネギです。関東以北のだし汁は、未だになじめません。偏見と言われても結構です。真っ黒のだし汁では、せっかくの卵焼きも浮かばれないでしょう。とろっとした卵焼きの間から、ついに歯ごたえの良い「明石だこ」です。噛みしめるほどに、うまさの出る明石海峡が育んだ「明石だこ」は、我が国一と申してもよいでしょう。7 月 17 日の番組でも、アナウンサーが、それはおいしそうに食べて見せてくれました。当然!と思いながらも、実にうらやましく感じました。

もう 1 つは、「たこ飯」です。「麦わらだこ」というのだそうですね、明石の干しタコのことを。恥ずかしながら知りませんでした。「干しだこ」を刻み込んでアゲを加え、薄口醤油とみりんで炊き込むと、あのすばらしい「たこ飯」の完成です。こうして書いているだけで生唾が出る思いです。札幌にもお好み焼き屋が何店舗か出来ました。しかし、明石焼き屋はまだです。JR 札幌駅の一角に大丸ができて、一挙に関西風になりましたが、明石焼きまでは後一歩です。

ちなみに、高校の時はバス通学のためもあって、お好み焼きを朝食に頂きました。栄養バランスが良く主食だと思いました。バスを待ちながらほおばったのです。亡き母に感謝です。今でも週に一度は頂いております。最初は恐る恐るの感があった家内も率先していただくようになりました。ちなみにこちらではソースは「ブルドック」か「お多福」印です。

魚の棚と明石銀座

高校の時は、魚の棚へは自ら行ったことはほとんどなかったです。しかし、母の手伝いで正月の買い出しに付き合いました。活気にあふれ、おいしそうなものが溢れていました。20 年ほど前でしょうか、北海道出身の家内と出かけたとき、太刀魚、鯛、そしてベラが並んでいました。家内は、こともあろうにベラと太刀魚を見て、「なに、この熱帯魚みたいな魚は、食べられるの？」でした。がっかりです。太刀魚は塩焼きに、ベラは焼いて三杯酢に漬けていただきます。また、春には丸々太ったイカナゴを炭火で焼いていただきました。あのようにおいしい魚の味を知らないのは、かわいそうです。

もっとも北海道ではホッケ、鮭、氷下魚ですので、これはこれでおいしいと思いますが、イカナゴには及びません。明石周辺で暮らしておられる同期の皆さんをうらやましく思います。しかし、福島原発でこのような魚の話題も難しくなってきましたね。早く終息して欲しいです。私共が使ってきたのは全部お日様が形を変えたものです。しかし、原子力は違います。私たちは核分裂を制御できると思っているのでしょうか。それに向かって東海村へ行った河村さんの鋭いまなざしが今も脳裏に焼き付いています。

明石銀座へ初めて 1 名で行ったのは、中学 2 年の時でした。当時の私には、町といえば三木市です。バスで 10 分くらいでした。しかし、明石は遠くて 50 分近くかかり、国鉄や山陽電鉄という 2 つも鉄道が走っている大都会でした。そこへ出掛けるのは、一大決心でした。きっかけは高校入試が変わったことです。1 つ上

の従姉が経験した兵庫方式の導入でした。それまで遊びほうけていたのですが、このままでは高校へは行けなくなる、と思ったのです。しかし、どうやって日々勉強したらよいかさっぱり解らず、とにかく明石の町の本屋に出かけて行って、そこで参考書というものと問題集があることを知りました。大都会を感じました。それ以降、時々、参考書などを買うために明石銀座の一角にあった（今もあるのでしょうか）本屋へ通ったものです。

最近、ネットで調べると「明石ぺったん焼」というおいしそうな品が見つかりました。タコを丸々焼いたそうで、NHK でもやはり宣伝していましたね。頭の中でネット情報が繋がりました。明石のタコは立って歩くということで、その新鮮さが売り物です。それを焼いていただくのですから、おいしいに決まっています。取り寄せようと思っています。

さて、食べ物の話しばかりではなく、最後に今の仕事のことです。

平畑先生の言葉

高 2 の時でした、「将来は植物学をやりたい（牧野富太郎になりたい、と心の中で話した）。」と申しましたら、「やめときなさい。生物では（職に就くには）厳しい。」と申されました。「生活のことは何とかなると思うのでやりたい。」と今思えば、結構、軽く甘く見ていたのですね、人生を。そうしたら「生物をやりたいなら、物理をしっかりやること。」と申されました。この一言で、得意だった生物は「趣味」にして、物理と取り組むことにしました。入試を甘く考えていたのですね。いつも失敗でした。でも、押原先生の魅力的な授業のお陰で、（小学校 5 年の実験、力学のつまづきで、苦手意識を今もぬぐえませんが）特に電磁気などは、とてもおもしろく感じました。

とにかく大学と言うところへ入ったら中学校の時に買ってもらった「牧野植物図鑑」を全部覚えようと思っていました。しかし、分類学（樹木学とか森林植物学と言います）も含む林学を目指したはずでしたが、支離滅裂で体系のない林学の講義の中で、当初の目標は失われていました。そんな中で輝いていたのは「林木成長論」という、樹木の成長をモデルで解析する分野でした。しかし、モデル構築の難しさと平均値の世界の限界を感じ、肥料学を中心とした植物生理学に興味が移りました。その中でも光の意味に関心を持ちました。この辺は、恐らく平畑先生や押原先生の教えのお陰なのでしょう。それ以来、光合成の仕事に従事しています。

その後、平畑先生や上根さんをはじめ兵庫県生物学会での先生方のご活躍を知りました。実は中学校の時にカキ（太郎助柿という品種：今も実家の周りに生えています）のヘタ周辺に年輪状の輪が出来ることに関心を持った私は、室井 綽 会長へ問い合わせをしました。その時からご縁があったのです。丁寧な返事を頂きました。平畑先生には、その後頂いた「明石公園花と樹のウォッチング」や会員として入手した兵庫県生物学会 60 周年記念誌「兵庫の自然今昔」などなどの御著作に、ご専門の遺伝学だけではなく、ナチュラリストとしての生き方に感銘を頂いております。

若い方々に伝統科目 1907 年開講の「森林美学＊」を講じている中で、遠くドイツ・シレジア（現在はポーランド）において、1885 年に開講されたこの科目の意義を、自らが理解してようやく講じることが出来るような思いでいます。ナチュラリストとして生き方は、牧歌的かも知れませんが、「ヒトが人として生きていくためには、自然の中での時間・空間が必要なのだ」と感じます。そのような思いを、明高でお世話になった先生方のように伝えることが出来るかどうか、あと僅かになった退職までの期間を試してみたいと思います。

飛行機では神戸空港までは千歳からは 2 時間足らず、そこから明石へは 45 分ですが遠い場所です。その故郷・瀬戸内の穏やかで美しい景色の意味を若者へ伝えたいと思っています。

この文章を書く機会を下さった河合様はじめ世話人の皆様に感謝します。

【＊註】当時、経済林の効率的利用に邁進していたゲルマン民族の真骨頂とも言うべき森林経営学の中で、システムとしての森林の意義と経営をユンカー（地主貴族）としての立場ではあったが、労働者への優しいまなざしを持って美しい森を造る意義が述べられている。我が国へも 1900 年頃には導入されたが途

絶え、北海道大学でのみ、今も講じられている。森林美学とは、樹種の生育特性を踏まえ、システムとしての森林の機能を活かして持続的生産を続け、そこを訪れる人々に感銘を与える森造りの方法を探究する体系である。

～ 中欧旅行記 ～

酒井 健次（3年9組）

24回生の皆様、お久し振りです。会員の皆様の中には、ご自身やご親戚の方、お知り合いの方でこのたびの震災に遭われた方もいらっしゃるのではないかと思います。一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、卒業してから早40年の歳月が流れ、明高で過ごした日々が懐かしく思い出されます。私は、今は、水道水の水質に関する仕事に携わっています。13年前に（財）日本水道協会からオランダ、イギリス、フランスに2週間視察研修に行き、少しは今の仕事に役立っているものと思っています。外国に行ったのは、これが初めてで、その時はとても緊張していたのを覚えていますが、これがきっかけとなり海外旅行に魅せられ、以後ヨーロッパ、北アメリカ、アフリカなどのいくつかの国を訪れています。また、今は、もう子どもたちの手も離れ、気楽な夫婦二人暮らしです。

このたび、7／22～7／29に、以前から是非行ってみたいと思っていた中央ヨーロッパを巡るツアーに参加しドイツ、チェコ、スロバキア、ハンガリー、オーストリアの5か国に妻と行って来ました。紀行文のような文章を書くのは初めてなのですが、これらの国々の素敵な風景や暮らし振りなどを紹介できたらと思い、ペンをとりました。

まず1日目は、深夜に関西国際空港を出発しカタールのドーハで乗り継ぎ、ベルリンに向かいました。ドーハ国際空港はとても広い空港で、空港内移動バスも次の停留所まで 15 分もかかります。24時間、人であふれ返っており活気に満ちています。さすが経済成長率世界一の国です。ただ、暑さと湿度の高いのには閉口しました。飛行機のタラップの昇り降りは、苦痛そのものです。2日目のベルリンで印象的だったのは、少し残されているベルリンの壁です。特に、東ベルリンから西ベルリンに脱出を試みて命を落とした大勢の人々、家族、親戚で東西に引き裂かれていた人たち、その人たちのことを思うと、何ともいえない気持ちになります。3日目は、ポツダム宣言で有名なポツダムに向かいました。ポツダム宣言が作られたのはツェツィリエンホーフ宮殿で、ここはイギリス風のかわいらしい建物でした。さあ、いよいよ4日目（の午前中）は世界遺産プラハ歴史地区観光です。プラハの街中を流れるヴルタヴァ川は、スメタナ作曲「モルダウ」という曲でも有名です。（ドイツ語では「モルダウ」、チェコ語では「ヴルタヴァ」。チェコの人にとっては、ハプスブルク家の支配下でドイツ語しか使えなかった歴史があり、「モルダウ」という言葉を使うのは屈辱感があるそうです。）また、あのプラハ城の中の聖ヴィート大聖堂のステンドグラスの美しさは世界一ではないでしょうか。このステンドグラスは、東レのコマーシャルにそっくりです。そして、カレル橋からの眺めは思っていたとおりの美しさでした。

(ツェツィリエンホーフ宮殿)

(カレル橋)

次に向かったチェスキー・クルムロフという街は、チェコで一番美しい街と言われていますが、そのとおり、とても美しい街並みで、心に残る風景でした。また、チェコはマリオネット（あやつり人形）でも有名です。優しそうなおばあさんの人形を買いました。

(チェスキー・クルムロフ)

翌日5日目は、スロバキアの首都ブラチスラバ観光です。ブラチスラバ城の四つの隅には塔が立っており、「ひっくり返したテーブル」と形容されています。スロバキアという国は、周囲の大国の都合で、あっちこっちくっついたり離されたり、

気の毒な時期が長かったのですが、素朴な雰囲気の感じのいい国でした。次に6日目は、世界遺産ブダペスト観光です。ブダペストは、ドナウ川をはさんでブダ地区とペスト地区に分かれ、くさり橋という橋でつながれており、「ドナウの真珠」と称される美しい街です。ゲレルトの丘から眺めるドナウ川、くさり橋などの景色は、写真で見ていた景色そのもの、いやそれ以上の美しさでした。また、ハンガリーの特産品のパプリカを使った料理「グヤーシュ」は、日本人の口に合い、とてもおいしかったです。ハンガリーは、アジア系の騎馬民族マジャール人の国で、日本人の味覚に近いのかも知れません。7日目は、世界遺産ウィーン歴史地区観光です。シェーンブルン宮殿などを観光しましたが、ウィーンは上品な雰囲気の漂う街でした。この日の夕方にウィーンを出発し、往路と同じくドーハで乗り継いで帰って来ました。

ヨーロッパは建造物が石造りであることもあり、歴史のある建物が多く残っています。また、古い建物を改築して使用しているものも多く、古い物、歴史のある物を大切にする気風が伝わってきます。私たちが高校生の頃ドイツは東西に分かれており、東ドイツは社会主義国、チェコとスロバキアは一つのチェコスロバキアという国で、やはり社会主義国、またハンガリーも社会主義国でしたが、今はすべて自由主義国となり、繁栄を続けています。40年前には思いもよらなかったことです。

暑い日本を脱出し、少し涼しい所に行って、鋭気を養ってきました。今年も、去年のように例年になく暑い夏です。その上に、節電や原子力発電所による放射能汚染など、大変なことや心配事もあります。会員の皆様も健康に留意されて、体調を崩されませんようになさってください。皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしております。長々とした文章になってしまったことをお詫びいたします。

（妻、記）

藤本英明君のご逝去を悼んで

旧10組　河合昭彦

毎年、11月を過ぎると喪中の葉書が届いてくるようになる。 その日も、仕事から戻って郵便受けを見ると何通かの葉書に混じって喪中の葉書が入っていた。

また、どなたかのお身内にご不幸があったんだな、と手にとってざっと見てみると「藤本…」とある。あれ、あの藤本君かな？彼のご身内のどなたが？と詳しくみると、「藤本英明が…」の文字にしばし茫然と立ちすくんでしまった。

藤本英明君とは人丸小学校、大蔵中学校、明石高校とずっと地元で一緒の学校だった。 残念なことにその頃は特に親しくしていただいていた、というわけではないが、陸上の短距離のエースでいつも級長をしていた彼のことは知らない同級生はいないだろう。

その程度の認識だった私が、彼の人となりを多少でも知ることが出来たのは、第二回の24回生同期会の折である。 初回の同期会で、人の輪の中心にいた藤本君をまわりの同期生が次回の幹事に、と強く薦めてくれたのだ。

本人に打診すると、ちょっと困ったような顔をされた後、すぐに快諾いただいたが、今から思うと、非常な早さで会社の幹部に出世街道を進まれていた頃で大変な激務の中、本当は随分迷惑だったんだろうと申し訳ない気持で一杯である。 その彼が作った第二回の同期会のレジメは、実に要所を押さえた素晴しいもので、未だに同期会のたびに、そのレジメに助けられている。

藤本君の訃報を知ると同時に、「24回生メールマガジン」で登録者に流させていただいたが、その直後から問い合わせの電話を何件かいただいたことも彼の人徳だったとしみじみと感じたしだいである。

ここまで書いてきたものを読み返してみて、私の文才では藤本君の本当の姿には程遠いことしか書けないことがまことに残念であるが、最後に藤本英明君のご冥福を心より祈念して追悼の文とさせていただきたい。

事務局からのお願い

・住所不明者について

住所が不明となっている下記の方々の情報提供をお願い致します。

1組：鞍田　透　村瀬繁樹　八木義孝　関みわ　定成幸子　泉谷恵子

2組：安藤悦郎　竹村郁子

3組：北田雅福　高橋英樹　土島日出彦　藤永みどり　秋定和子　平野由美子

4組：奥野好隆　田村政一　　仲井　透　大泉尚子

5組：　大村直樹　高下和則　橋本成弘　長谷川俊広　山本和彦　平山登志子　中川ゆかり　魚住篤子

6組：西馬慎三　岩坂芳子

7組：足立真知子　近藤恵子　富岡るみ　森江真岐子　盛井雅子

8組：諸岡宗司　山崎清孝

9組：魚住一裕　加藤和宏

10組：久山哲広　山崎栄造　村上正彦

2010年11月現在（敬称略）

もし心当たりがございましたら、下記連絡先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。名簿の管理は、手作業で行っております。ミスがありましたら、ご連絡ください。

事務局　河合昭彦

〒674－0051　明石市大久保町大窪1000－1

TEL&Fax　078－934－1667

メール　kawai@dokikai.nete

・カンパの終了

この「交叉点」の発行に必要な経費のうち最大のものは郵送費でした。そ　のために皆様にカンパをお願いしてまいりましたが、（株）サラト様と自彊会事務局のご厚意により、今後は同窓会新聞に同封していただけることとなりました。

それにともない、ひとまずカンパのお願いは終了させていただきます。

今まで、同期会の会場や郵送、振り込み等にてカンパいただいた皆様に深くお礼もうしあげます。

・自彊会（明石高校同窓会）との連携

昨年の11月末にハガキでもご案内させていただきました。おかげさまで、同期生450名中、200名近い方からご連絡を頂戴することができました。

今後とも24回生としても費用がかからない連絡手段としてメールを積極的に活用してゆきたいと考えております。

まだメールアドレスをご登録いただいてない方はぜひご登録いただけないでしょうか。 下記のメールアドレスに「お名前」のみの記入でメールを送っていただければ登録できます。ご登録いただくメールアドレスは「携帯」「パソコン」いずれでも結構です。

また、その後アドレスの変更等がございましたらご連絡をいただけると助かります。

メールアドレスm24@dokikai.net

＊QRコードです。携帯でのご連絡にご利用下さい。

次回の同期会のお知らせ

松尾（三木）衛子（旧4組）

次回同期会幹事代表の松尾（三木）衛子です。

4年ごと、オリンピックの年に行う同期会ですので、本来でしたら、今年、2012年に開催するところですが、私達も還暦の年齢にさしかかってきた、ということで、あえて一年ずらし2013年8月10日に同期会を開催したいと思います。

今回、幹事になっていただきましたのは、野田昌宏さん（旧3組）、三木隆司さん（旧10組）、浅田起代蔵さん（旧10組）、太田（畠田）良子さん（旧7組）、です。

みんなで頑張りますので応援をよろしくお願いいたします」

編集後記

3年9組　　松田千尋

２４回生の皆様、ご無沙汰しております。この度藤本英明君の訃報をお聞きし、あまりの急逝にしばし言葉がありませんでした。心よりお悔み申し上げます。

私のほうも昨年母を亡くしました。お聞きする限りでは、藤本君が亡くなられて間もなくの６月７日でした。父親の時には親戚筋もまだ若く、葬儀などを取り仕切ってくれましたが、今回は家内やその家族、そして妹などの助けを借りながらもほとんどの意思決定を自分でしなければなりませんでした。追悼文は河合君に書いていただきましたので、人間の一生というものについて、思いつくまま書いてみたくなりました。

これまで58年間、自分の一生あるいは終焉ということを考えることがありませんでした。いつか藤堂先生がお書きになられていた、人生の４区分のことも、未だかつて考えたことがありません。強いて言えば、未だ最初の区分の真っただ中です。それは今も変わりません。多分、最後の瞬間まで変わらないでしょう。

この度このようなことを考えるようになりましたのは、母親の死が唐突であり、ようやく落ち着いたころに、突然藤本君の訃報に接したからであります。彼の場合も突然だったようにお聞きしています。さらには、年始早々に知り合いが急逝されました。こちらも前触れはありませんでした。

母親の場合前日まで元気でしたが、臨終に立ち会えませんでしたので鑑識課のお世話になることと相成りました。８７歳の手前でしたが、歯が２５本あることに驚いていました。親不知がもともとなく、子供時代に八重歯を１本抜歯していますので、全部そろっても27本です。87年間一度の入院もなく逝ってしまいました。本来ならば、９０歳ぐらいまでは元気でいてくれたのではと悔やまれます。

このように、身近な人達の死に接し、私のこの世での役目は何だろうかと今更のように考えます。ほとんどの方は、この様なことを若い時期にお考えになるのでしょうか。私の場合、全くそんなことを考えずにこれまでの５８年間を過ごしてきました。この問題は、考えても解決がつかないのかもしれません。基本的には今後も悩まず、心の赴くまま過ごすつもりです。

ところで、私は今本業とは別に裁判所関係の仕事に携わっています。裁判になる前に話し合いの場をもつという仕事です。こういった様々な紛争に接すること、そしてこの度の一連の出来事に接する中、我欲というものが限りなくゼロに向かって少なくなってゆきます。毎朝気持ちよく目覚め、美味しくご飯を食べ、仕事が終わってからジムで汗を流し、間もなく再開してから7年になるフルートを約１時間吹き、たまには友人と飲み会をし（実はしょっちゅうです）、ぐっすり眠るという生活、それが最高に幸せなことであるとしみじみ思います。夜はたくさんの本を読みます。自然科学系は少なく、政治経済から宗教、歴史、占いまで何冊も並行して読みますので、なかなか１冊が終わりません。テレビはあらかじめ決めた番組しか見ませんので、紅白歌合戦などほとんど知らない人ばかりでした。エックスジャパンとエグザイルの区別もつきませんし、スマップもさすがにキムタクと草薙はわかりますが、他は判りません。嵐も光源氏も私にとっては同じです。

こんな生活の中、様々な場所、場面で私と接する人達が少しでも良き人生を送れたら良いと思えるようになりました。平成１５年の始めから、約９年をかけてそういう心境になりました。このあたりが、生きる意味かもしれません。いずれは私にもお迎えが来るでしょう。しかしその時まで準備するといった、林住期（こんな字でしたっけ）の考えはやっぱり持てません。多分最初の青春期のまま終わるでしょう。

こんな私が色んな人達の相談にのれるのだろうかと、自信を持てなかった時期が最近までありましたが、それぞれの人がそれぞれの人生を懸命に生きていることを、頭ではなく腑に落とすことができるようになった気がします。WATERと初めて叫んだ人は、どのような気持ちで叫んだのでしょうか。たくさんの人達のお世話が楽しい今日この頃です。

編集後記といいながら、毎回しゃしゃりでてくるとは思います。どうかご容赦ください。今後もたくさんの原稿をお待ちしています。たくさん恥ずかしいことを書きましたが、これも皆さんに投稿し易い土壌を作るためと思っております。却って書きにくいとはおっしゃらないでください。